

# トランプ時代のアメリカ政治

## —— 若年層と女性たち

アメリカ社会の変化を象徴する2つの新しい集団は、次の政治のありように大きな影響を与えるだろう。

東京都立大学 法学部  
教授 **梅川 健**

### 選挙が映し出す社会の変化

日本政治に慣れ親しんだ身からすると、アメリカ大統領選挙の最大の不思議は、党内の非主流派でも大統領候補になれることである。4年ごとに行われる大統領選挙では、選挙年の2月から8月にかけて民主党と共和党のそれぞれが党内で大統領候補を吟味し(予備選挙と党員集会という方式がある)、その後11月の本選挙で両党の候補者が一騎打ちで争う。日本では政党指導部が候補者指名権を握っているのに対して、アメリカの民主党も共和党も、指導部は候補者を指名できない。政党を背負って立つ候補者の決定は、各州に割り振られた代議員が党大会に集まって行う。ただし、代議員には投票先を決める裁量はない。各州の予備選挙・党員集会の結果が代議員の党大会での投票先を決める。つまり、一般の党支持者が党候補を選ぶのである。

この仕組みは1970年代に各党が導入した。それ以前は政党指導部が密室で候補者を選出していたのだが、党支持者の民主化要求に応えるかたちで、現在の方式になった。ただし、民主党は長らく、政党指導部の力を維持するために特別代議員(現職の連邦議会議員などから構成される)を置いていた。特別代議員は党支持者

によって選ばれた代議員と同じ一票を党大会で投じることができた。2016年の民主党内の競争でヒラリー・クリントンがバーニー・サンダースに圧倒的に有利であったのは、特別代議員票を固めていたためである。20年から特別代議員は1回目の投票で過半数を獲得する候補が出ない場合の2回目投票から票を投じることができると党内規約が改正された。

両党の候補者選定方式の民主化は、最終的にどういった人物が大統領になるかを劇的に変化させた。ジミー・カーターやロナルド・レーガンといったワシントンのアウトサイダーが大統領の座に上り詰めることを可能にしたのである。この流れの中に、ドナルド・トランプがいる。彼は積極的な共和党员ではなかったし、公職経験もなかった。しかし、党支持者の心をつ



スーパーチューズデーの集会で演説するサンダース上院議員  
(提供: 朝日新聞社)